

## 「ハンセン病問題から学んだこと 若者たちの声」(2)

今回は<sup>えいしん</sup>盈進中学高等学校2016年度ヒューマンライツ部部長、高橋和さんの報告の概要です。

ヒューマンライツ部は、部落解放研究部、障がい者問題研究部、在日韓国・朝鮮人問題文化研究部が統合してできたクラブです。「手と手から」中高生として地域や国際社会の平和と人権の環を広げるために貢献する」をテーマに、幅広い人権にかかわる活動に取り組んでいます。

主な活動内容は①東日本大震災の支援と被災者交流、②核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン、③ハンセン病問題から学ぶ(岡山県の長島愛生園を中心に23年間の交流学習)、④地域ボランティア、などです。また、これまで「外務省青少年国連視察団」としてニューヨーク国連本部視察、国連関係者との懇談会にも参加した生徒もいます。

### 〈高橋 和さんの報告〉

私たちの盈進中学高等学校には、中学生を対象に「にんげん学」という授業がある。この授業で「ハンセ

ン病問題から学ぶ」というテーマで、ヒューマンライツ部の高校3年生が中学1年生全員に授業を行う。

高校3年生になった私は、クラブの同級生たちと授業の組み立てを行った。

授業は3時間構成、授業の時間に中学生が感想を書いてくれる。その感想を読むと、正しく理解されていない、正しく伝えられていないことに気づき落ち込むことがある。「ハンセン病にかかった人は、かわいそう

だと思った。」このような「かわいそう」という他人ごとの感情やその場限りの同情で終わらせないために、私たちはどう伝えるべきか頭を悩ませた。間違った知識や誤解は差別を再生産するからだ。

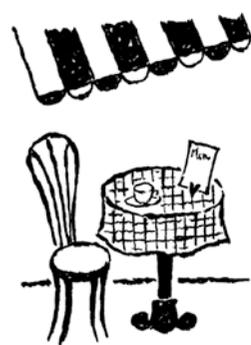
原点に返って金<sup>キム</sup> 泰九<sup>テウ</sup>さんの言葉をかみしめた。「正しく知って、正しく行動する。ただ知るだけではだめだ。正しく知らなければならぬ。

知っていて正しく行動しなければ、自分たちの幸せな社会を築くことが出来ない」。この言葉をもとに、試行

錯誤を重ねながら授業を始めた。重要な事柄は、画用紙に書いて中学1年生全員で読んだ。

そして、授業の最後にはこう伝えた。「無関心を改め、社会の一員としての自覚を持ち、いじめや差別を見抜くこと。過酷な偏見や差別を生きぬいてきた人々から生きる意味を学ぶこと」「かわいそうという他人ごとの感情やその場限りの同情で終わらせるのではなく、そこから自分が社会にどう働きかけることができるか、これからもずっと考え続けよう」。

ヒューマンライツ部の中高生の取り組みに心を打たれました。「正しく知り正しく行動する」。正しく知るとためには学びが必要です。大山町でも人権推進大会、みんなの人権セミナー、小地域懇談会などの研修の場を設けています。機会を捉え参加し、「正しく行動する」ことに繋げていきたいものです。



### 金 泰九さん

1952年に26歳で長島愛生園に入所。2016年11月19日、90歳で永眠。ヒューマンライツ部と交流。

## 第4回みんなの人権セミナー

### 人権セミナー

◆日時 9月11日(火) 19時30分

◆場所 大山町役場大山支所

### ◆講演

「災害にも強い地域づくり〜顔の見える関係づくりと支え合い活動〜」

講師 山下 弘彦さん(日野ボランティア・ネットワーク)

### ◆その他

託児・手話通訳・その他配慮を希望される場合は、人権推進室に申し込んでください。

◆問い合わせ先 福祉介護課 人権推進室(人権交流センター内)

☎ 0859・54・2286  
FAX0859・54・2413

